

～初級から楽しく描こう～
第12期 楽しい水彩・パステル

【10月の活動報告】

10月7日（月）水彩風景（3）空、雲、山、水面A～B

- 【空】空は一色ではない。水彩絵の具は常に変化する空を表現するのに適した用具。
基本表現としては、ウェットオンウェット技法で色を重ねたり、ぼかしや滲みなどで表現する。手前を濃く、遠くを明るくして遠近感を出す。
- 【雲】雲も常に変化するが、最初に見た印象を大切に絵の中でバランスよく配置する。
使う色を全てパレットに作っておき、ウェットオンウェット技法を使う。
- 【山】形の面白さや色彩を考慮しながら、遠くから大まかに描く。
- 【水面】水面を表すことと反映してできる映り込みを描くことの2種類の処理を行う。
基本的に水面は横タッチ、水に映ってできる影は縦タッチで描く。
※午後は各自の実技の中で先生から指導を受けた。

10月21日（月）校外学習（万博記念公園での写生会）

・校外学習

万博記念公園内の日本庭園で写生会を開催（参加者は28人）
当日は天候にも恵まれ、各自が好きな場所を選び、写生を行った。
写生会の最後に、全員で作品の鑑賞会を実施した。
写生会の後は有志一同で公園内の花園を見学したが、コスモスやコキアが色鮮やかに咲いており、良い気分転換が出来た。

10月28日（月）水彩風景（4）樹木、岩、建物A～B

- 【樹木】樹木は風景のわき役として必須で、描く時は自然に見えるように強調や省略が必要。
おおつかみに円盤のかたまりでとらえ、幹、枝、葉などの細部の特徴に合わせたタッチで描き、質感を出す。
- 【建物】風景の主役になることが多い建物や街の姿を絵画的に表現する。
水平線は目の高さにある。また消失点を考えて描く。
影を描き込むことで光を表し、画面に奥行きと存在感を与える。
ポイントは建物と樹木をどのように対比させるかにある。
※午後は各自の実技の中で先生から指導を受けた。

【写生会の参加者】

